

大学 50 年の歩みに寄せて

聖路加同窓会会長 松谷 美和子

紀要第 40 号の発刊おめでとうございます。続けるということの重みを感じます。同時に、大学は開設 50 年の節目を迎えました。やがて、2020 年のオリンピック開催年には学園は創立 100 年を迎えることになります。人々の思いのこもった歳月は一朝一夕には得られない貴重な賜物を今日の私たちに与えています。目に見えないその賜物は、しかし、感じるものでもあります。私なりの感じるものを読み取って、その一部を記してみたいと思います。



昭和 39 年 6 月 25 日発行『聖路加同窓会だより』第 7 号の 2 ページ目に「聖路加看護大学設立について」と題した学長橋本寛敏先生の記事が掲載されています。なお、この記事は、日本病院協会会報 114 号より抜粋要約したとあります。

「聖路加看護大学が本年一月廿五日に認可された。」で始まるその記事は、既に看護系学部・学科が開設されているものの、「本気で日本の将来を憂え、医療活動を強化し、看護教育の本質を向上させるために大学の名を上げたのはこの学校が初めてだと思う」と述べ、「病院医療の重要な機能の一つである看護を本然の姿に育て上げない限り日本の病院もまた存在の意義ある医療機関として存在し得ない」と本学における大学化の使命を公にしています。さらに、「看護を本然の姿に育て上げる」ための、適正な教育内容および指導者となる人材の選択について、それまでの実績から自信があり、看護大学としての名を上げたと言得力のある説明を付記しています。

とはいえ、1 月 25 日の認可で募集公示が遅くなり、応募者の十分な確保に至るか心配したようです。しかし、入念に選抜できるだけの十分な応募者があり、結果として優れた学生の入学を許可できたとあります。しかも、補欠は必要なく、これは、入学志望の意志が堅固であることの証であると述べています。このようにして、聖路加看護大学が名実共にスタートしたのでした。

それから 50 年。聖路加看護大学は、聖路加国際大学と校名を変え、学校法人における病院との一体化を実現し、さらに飛躍しようとしています。「たったこれだけ？」“Is this all that I am to have?”¹ というトイスラーの言葉から始まったミッションは、今やこのようなかたちで実を結ぼうとしています。聖路加病院は、1902 年小さい病院として産声をあげました。当時、医学の成果をあげるための病院の組織と運営が課題でありました。初期の看護婦養成の経験から、高い水準の学習基盤をもつ者を教育することが重要であるという認識のもとに、1920 年には高等女学校卒業を入学の要件とする聖路加国際病院付属高等看護婦学校を創設、1927 年には、本科 3 年の聖路加

女子専門学校となり、公衆衛生看護の選択科目等を学ぶ研究科1年を併設しました。敗戦の1945年から1953年までは病院と校舎の接収にともない、東京看護教育模範学院として日赤とともに広尾に存在し、1954年には築地に戻り、短期大学となりました。それから10年後の1964年には大学となり、さらに1980年には私学初の看護学修士課程を設置、1988年にわが国初の看護学博士課程を設置するに至りました。

本学の高等教育のレベルはどの時代も日本をリードする内容を保ってまいりました。それはひとえに、学生の力、それに応える教職員の力、そして教育の成果を社会で顕現している同窓生の力にはかなりません。

病院との一体化は、今日の大学の源を遡れば、これは、当初からそうであったのであって、今更という感じもいたしましょう。スピリットにおいては当初から一体であり、財政区分上分岐し、再度ひとつになるということになります。再びの一体化のための手間と時間とエネルギーは、大学と病院とが「生きた有機体」ⁱⁱとして働くための欠かせないエクササイズであり、やがて結実します。本領が発揮されるのはこれからです。学と研究と実践がよい循環をつくり、成果として現れ、それを人々がともに実感できるような活動、これをつくりだす有機体本体の一部をなす母校、その発展を支え、応援したいと存じます。

i 中村徳吉（1968）：聖路加国際病院創設者ルドルフ・ボリング・トイスラー小伝（2009年版）. p.13. 東京：聖路加国際病院.

ii “This hospital is a living organism designed to demonstrate in convincing terms the transmusing power of Christian love when applied in relief of human suffering”. Rudolf B. Teusler（1933）（キリスト教の愛の心が人の悩みを救うために働けば 苦しみは消えて、その人は生まれ変わったようになる この偉大な愛の力を、だれもがすぐわかるように計画されてできた生きた有機体がこの病院である）